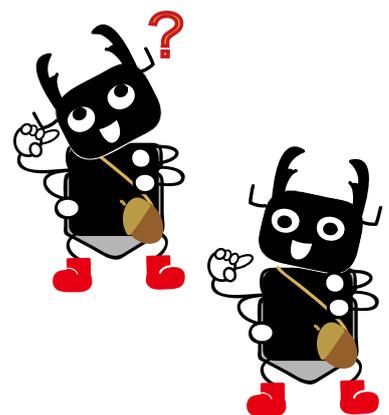


国有林野 事業の取組

近畿中国森林管理局 箕面森林環境保全ふれあいセンター

「箕面体験学習の森」の整備

— オオクワガタの棲める森づくり —



して適した多様性に富む環境が広がっていました。その後、薪炭利用の低下や建築用材等の需要の高まりなどから、落葉広葉樹林からの樹種転換が傾斜の緩い箇所などを中心に行われ、スギ、ヒノキの人工林が造成されました。



箕面国有林

センターでは、美しい紅葉が楽しめる年間約一〇〇万人の利用がある「箕面の滝」や「勝尾寺」等の景勝地に近接し、自然観察等で多くの都市住民が利用している「エキスポ'90みのお記念の森」を含む二六畝のエリア

2. 取組の内容

広葉樹の育成や伐採した木材を利用した菊炭づくり体験など、子供たちを対象とした森林環境教育を図り、併せて、多様性豊かな里山の再生と生物多様性の向上に資するため、センターでは箕面国有林（エキスポ'90みのお記念の森）を中心に「箕面体験学習の森」の整備を進めており、「オオクワガタの棲める森づくり」はその中の「里山体験ゾーン」の一部で取り組んでいます（位置図を参照）。

1. はじめに

大阪府北部の北摂地域は、池田炭と呼ばれる茶道用高級炭の生産地として古くから有名です。炭作りを行うため、原料となるクスギ等の伐採を短い周期で繰り返していたことから、集落周辺には様々な成長段階の広葉樹林が分布し、昆虫の生息地と

近畿中国森林管理局箕面森林環境保全ふれあいセンター（以下、「センター」という。）では、北摂地域の中央部に位置し、快適な生活環境の維持形成や身近な憩いの場としての役割が期待されている箕面国有林において、スギ、ヒノキの人工林からクスギやコナラ等の落葉広葉樹林への転換を通じ、かつての箕面の森を再生する「オオクワガタの棲める森づくり」に取り組んでいますので、その内容を紹介します。

間、里山再生のモデルとなる「箕面ながたにの森」の整備を実施しました。そして、平成一九年三月には、ボランティアによる里山の整備や希少な野生生物の保護など様々な要請に応えるため、里山再生を進める際のフーチャートや里山再生の事例、取組に当たったのチェックリスト等を取りまとめた里山再生ガイドラインを作成しました。

このガイドラインを踏まえつつ、

森林環境教育の推進に当たっては、対象が小学生及び幼稚園児のため、苗木の育成、植栽等の体験を通じ、「森林」が①豊かな体験を提供する場であること、②正しい知識を得る場となること、③生活や日本人との関わりを作り上げる対象となることなどを「気づかせるきっかけづくり」となること」を目指しています。



どんぐり拾い



どんぐりの水やり

どんぐりの植え付け

3. 取組状況

「オオクワガタの棲める森づくり」は近畿中国森林管理局と大阪府、ボランティア団体、箕面市内の小学校・幼稚園等と連携した住民参加型の取組であり、センターが実施に際しての働きかけや技術指導等を行いながら、苗木の育成、植栽、下刈り等の一貫した取組を継続して実施しています。平成二〇年度からは、箕面市内の三つの小学校と五つの幼稚園において、北摂地域に自生するクヌギ、コナラなどのドングリを小学生や幼稚園児が拾い集め、学校等で育てています。また、市民イベントの機会を通じて当取組の趣旨に賛同された

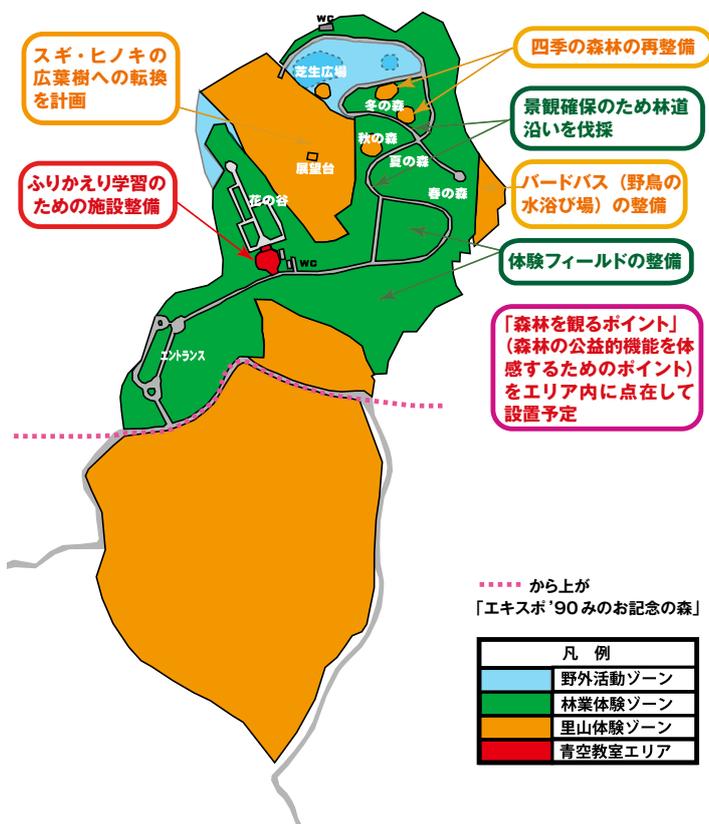
都市住民も苗木を家庭等で育てています。本年一二月には「箕面体験学習の森」の展望台周辺にあるスギ、ヒノキの人工林二杉を伐採し、来年春にクヌギ等の苗木を植樹することで、オオクワガタなどの昆虫が息息する落葉広葉樹林に転換することにしています。

また、クヌギを主体とする落葉広葉樹林内では、NPO法人日本森林ボランティア協会の協力により、昆虫ベッド（木枠にクヌギ、コナラなどの枝や落ち葉を集積した、クワガタなどの産卵用の箱）を二箇所設置しました。今年度についても昨年度と同様、小学生によるドングリ拾いやポット苗の埋め込み、昆虫ベッドに入れる落ち葉集めを行う予定です。

4. おわりに

小学校や幼稚園から「自然の中の生命を自分たちで守り育てなければ、という意識を子どもたちが持つきっかけになって欲しい」「ドングリはおもちゃとしてばかりでなく、生きていくということを体験出来て良かった」といった感想が聞かれるなど、森林環境教育の一環として本取組の

「箕面体験学習の森」位置図



成果が出て来ているようです。来年春には鹿による食害を防ぐためボランティア団体の協力により柵等の設置を行い、また、苗木を育成している方々を対象としたカミネツコン（再生紙段ボール型枠）を使った植樹行事も行う予定です。

今後は、下刈りや間伐などの保育作業を引き続き行い、十数年後からは順次、台場クヌギ（注）を仕立てていきます。今後ともボランティア団体や教育機関、地域住民の方々と連携しながら、箕面国有林を子供たち

の森林環境教育のフィールドとして長期に渡って有効に活用出来る取組を続けていきたいと考えています。

（注）薪炭材として利用するため、数十年から数百年繰り返し枝打ちしたクヌギ。枝打ち後に「うる」と呼ばれる空洞が出来やすく、オオクワガタの生息に適すると言われている。

「オオクワガタの棲める森づくり」の詳細は、こちらから (<http://www.kinki.kokuyuin.go.jp/fureai/index.htm>)